京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

京芸通信 24

Kyo-gei Tsushin

京都市立芸術大学広報誌
2019年7月発行

対談

京都芸大の"将来像"とは？

学長
赤松玉女
画家

副学長
大嶋義実
フルート奏者

京芸トピックス
加須屋明子教授グロリア・アルティス受章／クロックタワーコンサート／五芸祭／祇園祭「鷹山」囃子方衣装完成／祇園祭うちわデザイン／ピアノフェスティバル／定期演奏会／伝音セミナー／京芸オリジナルグッズ

京芸の先生に訊く — 中井 悠 講師（音楽学専攻）

Kyogei Event Schedule
これからのイベントスケジュール（展覧会／演奏会／公開講座等）

お知らせ
新任教員のご紹介／教室のフィロソフィー／ご寄付のお願い

対談

京都芸大の"将来像"とは？

4月に就任した赤松玉女学長と大嶋義実副学長に，京都芸大の魅力，そして本学が目指す将来像について語っていただきました。

学長 赤松玉女 画家 × 副学長 大嶋義実 フルート奏者

昔を知っている私たちだからこそ率先して学生の自主性を確保したい

―― 学長就任おめでとうございます。就任から3箇月が過ぎました。今の感想をお聞かせください。

赤松 京都芸大には20年以上教員として勤めており，だいたいのことは理解しているつもりでしたが，学長は教員とは全く違った業務ばかりなので転職したような気分です。また，画家ならば制作での失敗は次の制作に活かしたり，教員としての肥やしになりますが，学長は失敗できないという緊張感をもって日々過ごしています。就任後，教育界や経済界など各方面の方々にお会いする機会をいただき，京都芸大をアピールさせていただくと，想像以上に皆さんが京都芸大に期待されておりエールをくださいます。

私が美術学部出身ということもあり，学長への内定をいただいた時から副学長には音楽学部の大嶋先生にお願いさせていただこうと考えていました。

大嶋 ありがとうございます。これまで，副学長は特別な時にだけ任命され，日本画の上村淳先生や打楽器の山本毅先生など偉大な方ばかりなので恐縮しています。

1999年に京都市芸術新人賞を赤松学長と同時に受賞した時，受賞者が関係者を集めた懇親会の幹事を務めることになっていたのですが，私が海外に行っていたため学長に全てお任せしたことを20年位気にかかっていました。だから依頼があった時は，お受けするしかないと思いました（笑）。

赤松 そうでした。そうでした。あの時は全然手伝ってくれませんでしたね（笑）。

私も副学長も京都芸大出身ですが，学生の時にこの沓掛校舎と移転前の校舎を経験した貴重な世代ですよね。

大嶋 私は，4回生の時にこの沓掛校舎に来ました。以前の校舎は古くてボロボロでしたが，やりたい事が自由にできましたね。守衛さんも学生が務めていたぐらいでしたから。それに比べて，沓掛校舎に来たときは，新しくて施設も充実していたのが嬉しかった半面，管理が厳しくなり自由がなくなってしまったように感じたことを覚えています。

赤松 私は，2回生まで以前の今熊野校舎で過ごしましたが，木造校舎やプレハブ校舎もありました。やはりボロボロでしたが，自主的に物事を進めることの責任と自由を学びました。沓掛校舎では教員に就任した後，作品展の学内展示を望む有志の学生たちと職員の方と議論を交わしながら，展覧会の作り方や展示方法を工夫しました。

大嶋 学生が自由に表現するために様々な制約をいかに突破するか，知恵を絞ることも貴重な経験です。自由こそ素晴らしい芸術に欠かせないものですから，昔を知っている私たちが率先して学生の自主性を確保していきたいですね。

本学ならではの少人数制と横断教育

赤松　自由があるのが京都芸大の魅力ですしね。他にも少人数なので，同学年だけでなく先輩，後輩がみな顔見知りというのも特徴ですよね。美術学部の特色ある「総合基礎実技」は，もはや伝統で，私も受講しました。学科や専攻を超えて共通の課題や共同制作に取り組みます。毎年各ジャンルから参加する教員がチームになって指導に当たっており，ノウハウがゆるやかに蓄積されつつも毎回新しい挑戦があり，それが京都芸大ならではの授業になっていると思います。

大嶋　音楽学部も1学年65名と少人数で全員が顔見知りです。専攻内はもちろんのこと，専攻の枠を越えて学生だけの自主的な演奏会を多数実施しています。さらに専攻ごとの人数のバランスがいいので学内だけでオーケストラを編成することができ，卒業までに弦楽，管・打楽専攻の学生全員が必ずオーケストラに参加できるというのも貴重な経験だと思いますね。

赤松　美術学部と音楽学部がこの沓掛校舎で一緒になったことで，交流が深まり，教育環境の多様性に寄与していると思います。例えば復元された音響彫刻を使って，美術と音楽の教員が共同での授業を模索しています。また，芸大ミュージカルグループ（GMG）では，美術と音楽両学部の学生が一緒にスタッフとして，キャストとして公演を作り上げています。草創期には当時学生であった世界的指揮者の佐渡裕氏が第一回公演のオーケストラ指

揮を務め，声楽専攻の日紫喜恵美先生や，漆工専攻の栗本夏樹先生も学生時代にご出演されているなど長い歴史のあるクラブ活動です。

大嶋　そのほか，日本伝統音楽研究センターと芸術資源研究センターの両研究センターが創設されたことで，授業にお琴の体験を取り入れたり，芸術資源のアーカイブ化に取り組んだりと，学生は様々な角度から芸術を学べますからね。

赤松　卒業すると他者との協働が欠かせませんから，学生時代から専攻・学部を越えて学ぶことは，本学の学生にとってとても有意義な4年間だと思います。

"テラス"としての大学

――　学長任期で最大の課題である2023年度の京都駅東部へのキャンパス移転に向け，これまで京都市，設計業者，本学で協議を続け，昨年11月に京都市から移転整備基本設計が公表されました。新キャンパスではどのような大学を目指していきたいとお考えですか？

塩小路通から見る新キャンパス（イメージ図）

赤松　移転基本コンセプトを検討している中で，出てきたキーワードが「テラス」でした。テラスは建物の一部でありながら，外に向かって広がる空間です。ここではそよ風を感じながらおしゃべりができ，雨や風の日には建物の中に入って 外の湿度や風の音をじっくり感じ，観察することができます。鴨川の夏の「床」もテラスですが，外に一番近い内側であり，中に一番近い外側，川面や地面から少し浮いた存在です。閉じたり開いたり自在にできるフレキシブルな場であります。

テラス構想とは，大学のありようについての考えです。京都は歴史，伝統や技術，新しいテクノロジーや知財が層をなしています。その豊かな土壌を活かすために，外に向かって開かれ，壁や垣根がなくて多様な人々が往来できる大学でありたい。さらに，大学や芸術は社会からいい意味で浮いています。浮いているテラスだからこその自由さもあります。

実際に，本学は近年，多くの催しを大学の内外で行うようになりました。展覧会や演奏会はもちろん，企業，研究機関との連携事業を活発に展開しています。学部や専攻，学科と実技の垣根を越えてそれぞれが協力することが新しい成果を生み出し，結果として学内外をつなぐ交流の場，つまりテラスを作る行為そのものになっていると言えます。テラス構想はすでに始まっているのです。

テラスとしての大学は，性別・年齢・国籍・人種・宗教・性的指向・障害の有無など社会の多様性を映し出します。移転を機に，新校舎では地の利を活かして，あらゆる人々に開かれ，異なる文化間の相互交流や創造的な社会実験を可能にしたいと思います。そのような活発な交差・交流を可能にするエンジンに当たるのが私たちにとっては芸術なのです。

何より大切なことは，テラスで受け取った刺激や情報をそれぞれが持ち帰り，専門的で高度な独自の作品や研究にしっかりと昇華させていくこと，これが大学としての最大の使命です。小さい規模の大学でありながら，多様な価値観を真に認め合う寛容な大学においてなされる芸術活動，研究，教育こそが京都芸大が社会に還元できる最も大きな公共の利益であると考えています。

大嶋　芸術家は，見えるままを表現するのではなく，行間であったり，存在しないのに確かに在るものを表現することで，社会に

新キャンパス周辺図

新たな価値観を提案できる存在だと思います。京都市民をはじめ京都芸大を支えてくださる方には，本学を「オモロがって」ほしいですね。京都芸大の作品展，演奏会などにぜひ足を運んでいただき，本学の神髄に触れていただきたいと思います。

本学卒業後のライフスタイル

―― 学長任期の４年間で，他にどういったことに取り組みたいとお考えですか？

赤松　若い芸術家が安心して生活ができ創作活動が行えるような新しいライフスタイルを提案していきたいですね。本学卒業生の全員が芸術家，音楽家として 独立できるかというと，必ずしもそうではありません。アルバイトをしながら創作活動を行っている人

もいれば，創作活動から離れてその職場や立場で面白い活躍をする人もいます。本学で芸術の基礎から実践まで学んだものを様々な形で存分に活かせるような社会を実現することが，芸術大学である本学の使命であると共に，自らも画家である学長として取り組んでいきたいことです。

大嶋　芸術家が独り立ちするまでには時間がかかることが多いですからね。本学では一般的な就職課ではなく，キャリアデザインセンターを立ち上げ，在学生だけでなく卒業生の就職の相談はもちろん，制作活動や展覧会，演奏会等の開催に向けたアドバイスを継続的に行っていることも特徴ですよね。

赤松　ワークライフバランスや働き方改革など新たなライフスタイ

鴨川から見る新キャンパス（イメージ図）

ルが求められている今こそ，例えば週４日働き３日創作活動ができるような仕組みづくりを企業や社会に求めていけるチャンスかなと考えています。本学の卒業生が１人でも多く芸術に携わり続け，またそれぞれの立場で京都芸大で培った力を発揮してほしいです。

―― 最後に学長から読者の方へメッセージをお願いします。

赤松　日ごろから京都芸大を支えていただき，ありがとうございます。京都芸大は 2023 年度の京都駅東部へのキャンパス移転を控え，大きな転機を迎えようとしています。1980 年に沓掛キャンパスに移転してきて，美術学部と音楽学部が一つの敷地に入り，その後，日本伝統音楽研究センターと芸術資源研究センターを創設し，それぞれが連携することで教育，研究の質を向上させてきました。京都駅東部の新キャンパスでは，コンパクトな敷地に４つの機関が共存し，より密接な関係を結ぶことで，さらに高度な教育・研究が可能となります。

京都芸大は今までも，そしてこれからも，新たな価値観を提供することができる芸術の教育と研究に力を入れて，豊かな成果を皆様にお届けしてまいります。ひとりでも多くの方に，京都芸大が作り出す新しい変化や息吹を感じていただき，さらに移転に向けての動きにも注目していただければと願っています。

学長　赤松玉女［あかまつ・たまめ］

画家。1959 年兵庫県尼崎市生まれ。1984 年本学大学院美術研究科修士課程絵画専攻（油画）修了後，国内外の美術館やギャラリーでの展覧会を中心に活動。油彩，水彩，フレスコ技法等，画材や技法を組み合わせた絵画表現の可能性を研究。イタリアでの創作活動等を経て，1993 年に本学美術学部美術科油画専攻教員に着任。2018 年度から本学美術学部長。学外の組織と連携して，知的障害児・者のアート活動支援の分野に取り組んでいる。第 2 回京都府美術工芸選抜展 京都府買上げ（1984 年），第 33 回全関西美術展全関賞一席（1986 年），京都市芸術新人賞（1999 年）。

副学長　大嶋義実［おおしま・よしみ］

フルート奏者。1958 年大阪府東大阪市生まれ。1981 年本学音楽学部卒業後，1984 年ウィーン国立音楽大学を最優秀を得て卒業。プラハ放送交響楽団首席フルート奏者，群馬交響楽団第一フルート奏者を経て，1997 年に本学音楽学部教員に着任。日本音楽コンクール入選，マリア・カナルス国際コンクール名誉ディプロム，日本管打楽器コンクール入賞。京都市芸術新人賞受賞（1999 年）。

Kyogei Topics

京芸トピックス

京都芸大では学生，教員が年間を通じて多岐にわたる活動を行っています。
ここでは学内における最近の主なトピックスをご紹介します。

鷹山の衣装が完成しました（P.6）

美術学部加須屋明子教授が ポーランド最高位の文化勲章を受章しました。

日本とポーランド共和国との国交樹立100周年を記念し，ポーランド芸術祭2019 in Japan「セレブレーション−日本ポーランド現代美術展−」が京都芸術センターや二条城などで開催（5/18 − 6/23）され，美術学部総合芸術学科の加須屋明子教授がキュレーターを務めるとともに，本学関係者も多数出展しました。

開会式典は二条城で開催され，日本とポーランドの芸術文化交流への長年の功績から，加須屋教授はポーランド政府から同国最高位の文化勲章「Gloria Artis（グロリア・アルティス）」を授与されました。

撮影：上原 徹

京都大学でクロックタワーコンサートを開催しました。

2005年度に京都大学との間で締結した「大学間交流に関する覚書」に基づいて交流事業を実施しており，5月18日（土），京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて，クロックタワーコンサートを京都大学とともに開催し，本学赤松学長が出席しました。

本学卒業生で音楽学部指揮専攻の粟辻聡非常勤講師が，“古典？「新」古典!?”をテーマにハイドンの『交響曲第6番〈朝〉』などを選曲し，作曲家や曲にまつわるエピソードなどを交えたレクチャーと指揮を務めました。

第65回 五芸術大学体育・文化交流会（五芸祭）を開催しました。

5月23日（木）～26日（日），本学で第65回五芸術大学体育・文化交流会（五芸祭）を開催しました。五芸祭は，本学，金沢美術工芸大学，東京藝術大学，愛知県立芸術大学及び沖縄県立芸術大学の5つの芸術大学による芸術とスポーツの祭典で，沖縄県立芸術大学を除く4大学が毎年持ち回りで開催しています。

期間中は，バスケットボールやサッカーなど体育系クラブによる交流試合をはじめ，学内においては合同作品展やコンサートの他，特別企画として絵本作家の長谷川義史氏による講演会も開催しました。

来場いただいた方々には芸術の魅力を存分に感じていただくとともに，学生にとっては同じ夢を目指す仲間でありライバルである他大学の学生との交流に刺激を受けた大変貴重なイベントになりました。

なお，体育系クラブによる体育交歓会においては，前年度に引き続き本学が総合優勝しました。

祇園祭「鷹山（たかやま）」囃子方（はやしかた）の衣装が完成しました。

今年約200年ぶりに巡行に復帰した祇園祭「鷹山」の衣装等のデザインを，本学美術学部・大学院美術研究科修士課程の学生が，専攻横断型授業「テーマ演習」において取り組んでいます。

昨年7月に，鷹山保存会の方々に「囃子方」の衣装デザインのプレゼンテーションを行い，選ばれた紺地に鷹の羽を描いたデザインの衣装の御披露目会を6月15日（土）に漢字博物館内の「祇園祭ぎゃらりぃ」で開催しました。

また，7月24日（水）の後祭（あとまつり）では，鷹山保存会による「唐櫃（からびつ）巡行」が行われ，これまでに学生がデザインした「曳（ひ）き手」や「ちゃりん棒」の衣装とともに「囃子方」の衣装も着用されました。

今後，音頭取りの衣装や裾幕等のデザインを複数年かけて制作する予定です。

株式会社読売連合広告社の祇園祭うちわをデザインしました。

美術学部デザイン科では，2012年度から株式会社読売連合広告社の依頼を受け，1回生が履修するデザイン基礎の課題作品に位置付け祇園祭で配布されるうちわのデザインに取り組んでいます。1月8日（火）に本学で表彰式が開催され，読売連合広告社から受賞者に表彰状と副賞が手渡されました。

グランプリに選ばれたデザインは，58,000本のうちわに仕立てられ，祇園祭前祭（さきまつり）の宵山等に四条烏丸周辺で配布されました。

第33回ピアノフェスティバルを開催しました。

6月7日（金）に府民ホール“アルティ”において，第33回ピアノフェスティバルを開催しました。これは，ピアノ専攻の教育成果を披露する場として，学内オーディションにより選出された学生による演奏会で，2011年からは京都ライオンズクラブのご支援をいただき開催しております。今回は17世紀に活躍したJ.S.バッハから20世紀の作曲家まで幅広い楽曲をお届けしました。

撮影：上原 徹

第161回定期演奏会を開催しました。

撮影：上原 徹

7月11日（木）に，京都コンサートホール大ホールにおいて，第161回定期演奏会を開催しました。音楽学部指揮専攻の下野竜也教授が指揮を務め，ベートーヴェン「交響曲第2番」，ドビュッシー「交響詩〈海〉」，学内オーディションによって選ばれた弦楽専攻生の舘野真梨子さんがソリストを務めたチャイコフスキー「ロココ風の主題による変奏曲」をお届けしました。

指揮：下野 竜也（本学教授）
チェロ独奏：舘野 真梨子（音楽学部弦楽専攻 4 回生）
管弦楽：本学音楽学部・大学院管弦楽団
曲目：ベートーヴェン／交響曲第 2 番 ニ長調 作品 36
　　チャイコフスキー／ロココ風の主題による変奏曲イ長調 作品 33
　　ドビュッシー／交響詩〈海〉

伝音セミナー〈日本の希少音楽資源にふれる〉を開催しています。

日本伝統音楽研究センターは，日本の伝統音楽を総合的に研究する国内唯一の公的研究機関として，その研究成果を発信し，日本の伝統文化の振興に貢献することを目指しています。同センターでは教員が講師を務め，SP レコード等に残された迫力ある演奏を紹介する無料の講座「伝音セミナー日本の希少音楽資源にふれる」を開講しています。

7月4日（木）には渡辺信一郎所長が講師を務め，『亀茲（きゅうじ）から京都へ―散楽・蘇莫者（そまくしゃ）の旅』と題し，唐から伝来し千数百年を経て日本の舞楽となった蘇莫者の歴史をたどりながら，日本雅楽の源流と伝来を紹介しました。

今後の予定

8月8日（木）
第4回『昭和時代の“現代音楽”発掘』
講師：田鍬智志，竹内 直

9月5日（木）
第5回『大衆演芸にみる芝居と流行り唄』
講師：薗田 郁

『亀茲から京都へ―散楽・蘇莫者の旅』
渡辺信一郎 所長

『雅楽の今昔―こんにちの古譜解読と創作』
田鍬智志 准教授，ジョライ アンドレア氏

『人情と刃傷―音で知る「股旅もの」』齋藤 桂 講師

『説教節を聴く』薗田 郁 非常勤講師

オリジナルグッズをリニューアルしました。

オリジナル 五線譜ノート

オリジナル クロッキー帳

本学の学生をはじめ，広く一般の方々に本学への愛着を深めていただけるよう販売していました「クロッキー帳」と「五線譜ノート」について，表紙デザインをリニューアルしました。表紙は，本学大学院デザイン専攻生によるデザインで，「クロッキー帳」，「五線譜ノート」各2種類です。本学購買「リブレ」にて販売しておりますので，芸大祭など本学にお立ち寄りの際にはぜひご購入下さい。

京芸の先生に訊く。

Interview

音楽学専攻　中井 悠 講師

今年度，音楽学部音楽学専攻に着任された中井悠講師に，本学の印象や，多岐にわたる自身の活動について，お話しを伺いました。

※ある作品が進行中のため，顔写真は掲載できません。

― 音楽との出会いは。

イギリスとメキシコで幼少期を過ごしたのですが，小さいころからピアノやソルフェージュのレッスンを受けていました。でも高校生の時に，自分がやりたい音楽に興味を持っている人が周りに全然見つからず，音楽も音楽をやっている人もすごく嫌になったんです。それで，しばらくは音楽と切り離された生活を送っていたのですが，大学在学中に友だちに誘われて，近畿大学の東京コミュニティカレッジで造形作家の岡崎乾二郎さんの講座に通うようになりました。そこには他にも熱心な受講生たちがいたこともあって，二年目からコミュニティカレッジを乗っ取るかたちで，岡崎さんを主任ディレクターとする「四谷アート・ステュディウム」（2004－14年）という美術の学校に変えてしまったんです。それで岡崎さんと一緒に，自分たちが教わりたい人を授業に呼んだり，来日中のアーティストや音楽家にインタビューして広報誌を発行したり，イベントを企画開催したりしていました。そういう経緯でできた学校だったので，そこに集まった学生のバックグラウンドも実に様々で，絵画，彫刻，建築，演劇，映像，パフォーマンス，ダンスなどみんな異なるジャンルをやっていて，意思の疎通を図るためにいつもジャンル間で翻訳しているみたいでした。その中で，ぼくが唯一持っていたバックグラウンドが音楽だったので，話すたびになんだか音楽を代表しないといけないような気になってきたんです。しかも，ぼくと同じような不満を音楽に対して持っている人がけっこういて，それを今度は自分が引き受けないといけないという不条理な状況が生じてしまった。だから音楽にも面白いところがあるということをどうにか示さないと自分の立場がない感じがして，離れていた音楽の道に復帰したんです。

― 電子音楽のパイオニアとして知られる音楽家デーヴィッド・チュードアを研究されていましたがきっかけは。

2000年代の半ばにトリシャ・ブラウンというポストモダン・ダンスのコレオグラファー（振付師）と岡崎さんがコラボレーションをすることになり，そのプロジェクトに通訳として呼ばれたんです。でも岡崎さんが舞台で踊るロボットを制作したため，通訳だったはずが，いつのまにかロボット操縦士もやることになって，トリシャのカンパニーと一緒にアメリカやフランスをしばらくツアーしていました。その流れでトリシャが登場してきた1960年代のニューヨークのジャドソン・チャーチを中心とするダンスの歴史にも詳しくなり，その中でもイヴォンヌ・レイナーという人にとても興味を持ったんです。レイナーはコレオグラファーなのですが，70年代のはじめにダンスから映画に活動の場を移しています。その移行するタイミングで「グランド・ユニオン・ドリームズ」という非常に奇妙な，演劇的な作品を作っていて，それが面白かったので四谷で再現しようという話になったんです。そこで，ロサンゼルスに住んでいたレイナーに会いに行ったんですが，本人は昔の作品だからあまり覚えていなかった。でも資料は同じロサンゼルスにあるゲッティー・センターのアーカイブにあると教えられました。ゲッティーに行ってみたらレイナーの資料は届いたばかりだから未整理で見せられないと言われました。でもせっかく特別資料室に入れたので，他に何かめぼしいものがないかと調べたら，そこにデーヴィッド・チュードアの資料があることに気づいたんです。修士論文でジョン・ケージについて書いたのでチュードアのことはもちろん知っていたし，当時からケージよりチュードアの方が重要だと感じていたんですが，チュードアはほとんど何も残さず死んだという噂を聞いていたので，まともな研究はできないと思い込んでいました。だけど，その日アーカイブを見ることができて，研究に必要な資料がそこには十分あることが分かりました。ただ，その資料のほとんどは電子回路のスケッチなので，普通の学芸員はそもそも読むことができず，全体的にひどく散らかった状態でした。実はぼく自身も電子回路はそのとき読めなかったのですが，ちょうどトリシャとのプロジェクトも終わりかけていた頃だったし，チュードアを研究するためにアメリカに行こうと決めたんです。

― 西洋音楽史や英語の授業を担当されていますね。

そもそもぼくが学んだアメリカの音楽学では「西洋音楽史」という枠組み自体が，少なくとも3，40年前からいろいろな形で批判されています。だからいわゆる伝統的な音楽史，つまり，ひとつとされる「西洋」の，ほとんど全て白人男性の作曲家が書いた「テクスト」としての作品を中心とする音楽史を，そのまま教えたくはないという気持ちがありました。音楽史の面白い特徴として，一方では絵画や建築とかに比べて，対象となる過去の音楽そのものは残っていないということ，他方ではそれにも関わらず，そのつどの現在において過去の音楽が再演されうるということがあります。この二つの条件が絡み合った結果，音楽史では各時代においてそのつど過去を，悪く言えば捏造し，良く言えば発明する，ということが実はずっと続いているんですね。16世紀のフィレンツェにいたカメラータと呼ばれるグループが，当時は楽譜の断片が4つしか知られていなかったにも関わらず，古代ギリシャの音楽を復興しようとした結果，オペラを作ってしまった話は有名ですが，似たような事例は山のようにあります。その意味で「音楽史」は「偽音楽史」の連なりとして見ることができるんです。そもそも，いわゆる通常の「西洋音楽史」自体，ある特定の時代の人たちが自分たちの関心に従って作り上げたものだとすれば，それこそが「偽音楽史」だとも言えます。重要なのは，そうやって作られた過去であっても，それが実際に演奏されうるという条件が加わることで，単純に偽だといって片付けることのできない現実的な効果を持ってしまうことです。例えば20世紀の中世音楽の演奏は器楽伴奏付きのものから伴奏なしに変わったんですが，新しい研究の結果，やはり伴奏はついていなかったらしいことが分かったと音楽学者が言っても，伴奏付きで演奏していた何十年もの時間は取り戻せないし，その影響は消えないわけですね。だから授業では，こうした観点から「西洋音楽史」を「西洋偽音楽史」としてたどることをしています。

英語に関しては，日本語に翻訳することが重視されがちだけど，そもそも英語が分かることと，英語の学術的な文章が理解できることは別の問題です。英語が母国語の人がみんな，英語で書かれた論文がすらすらと読めるわけではないのですから当たり前のことですね。しかも英語を日本語に置き換えるということならある程度まで機械的にできるし，実際あと数年のうちに機械翻訳に任せられるようになると思うけど，ややこしい文章を読んで理解することの困難はずっと残ると思います。つまり，本当はこれは外国語の問題ではないのです。だから英語を日本語に訳すことだけではなく，図とか絵に訳して，論理展開や概念の関係性を把握することを教えています。

― 大学ではどのような活動をしていきたいですか。

ぼくのこれまでの研究では「楽器」というのが一つの軸になっていて，チュードアにしても自作の電子楽器を回路レベルから分析したり，それを復元して，演奏したりしています。音楽学部の学生の大半は演奏者だし，芸術資源研究センターでは復元作業も行なっているので，狭い意味での音楽学と実技やアーカイブなどの分野を横断する活動ができればいいなと思っています。それから，研究と並行してパフォーマンス作品をずっと作っているのですが，そちらでは音楽よりも美術やダンスの文脈に関わることが多いんです。だから，京芸でも音楽学部と美術学部を行き来するようなことができたらうれしいです。

Profile

中井　悠［なかい・ゆう］

慶應義塾大学（環境情報学部）を卒業後，四谷アート・ステュディウムで研究・制作，東京大学大学院（表象文化論）で修士号，ニューヨーク大学大学院（歴史的音楽学）で博士号を取得。フルブライト奨学生（2009-2011），日本学術振興会海外特別研究員（2016-2018）など。No Collective のメンバーとして音楽，ダンス，演劇，お化け屋敷などを制作，また共同運営する出版プロジェクト Already Not Yet より絵本，雑誌，博物館カタログ，ことわざ集などを出版。デーヴィッド・チュードアの結成した Composers Inside Electronics メンバー，かがく宇かんアーティスト・リサーチ・フェロー。2016年2月よりニューヨーク大学で音楽その他を教える。

Kyo-gei Event Schedule 2019-2020

これからのイベントスケジュール
※日時は変更になることがございます。

展覧会

2019年度 芸術資料館収蔵品展 第3期
ROZOME 小合友之助に始まるろう染めの伝統

会期 6/29〔土〕－8/4〔日〕 入場無料
会場 京都市立芸術大学 芸術資料館陳列室

ろう染めとは，防染に蝋を用いた染色法の一つです。筆を使って蝋を置く描き染めが特徴です。本学の染織専攻においても，戦後このろう染めによる表現が指導され，後進を輩出してきました。本展では，その指導にあたってきた小合友之助，佐野猛夫，三浦景生らの作品を中心に展示します。
◉ギャラリートーク：7/9〔火〕12:15-12:45

小合友之助《雨》（1953）

サンドラ・ビニオン「蒸化（ディスティレ）」 入場無料

会期 7/27〔土〕－8/18〔日〕
会場 @KCUA

フロベールの小説『ボヴァリー夫人』のイメージとアイデアを「蒸留」することによって，作品の本質を「抽出」し，小説的雰囲気を繊細に作り直す試み。会期中，柏木加代子本学名誉教授とビニオン氏によるトークイベント等の開催を予定しています。

© Sandra Binion

吉岡俊直「複眼と対称のノード」 入場無料

会期 8/31〔土〕－9/16〔月・祝〕
会場 @KCUA

フォトグラメトリーという写真計測技術を利用した版画作品を展示すると同時に，制作の舞台裏を公開。また，担当している学生や卒業生の版画作品を展示し，研究・創作・教育，という大学の一側面を俯瞰します。

ぼくらとみんなは生きている5～持続可能な愛のステージ～

会期 8/31〔土〕－9/16〔月・祝〕 入場無料
会場 @KCUA

京都と東京間で作家同士が荷物を送り合うプロジェクトです。本展ではいままで行ってきたことのアーカイブと，5回目となる新作“持続可能な愛のステージ”を展示します。（出展作家：大川原暢人，川又健士，迫 竜樹，鷲尾 怜）

教室のフィロソフィー Vol.11 福岡佑梨 個展

会期 9/14〔土〕－9/29〔日〕 入場無料
会場 ギャラリー崇仁

2019年度 芸術資料館収蔵品展 第4期
掛図と標本－美術工芸学校の教材 入場無料

会期 9/17〔火〕－10/20〔日〕
会場 京都市立芸術大学 芸術資料館陳列室

美術工芸学校には，明治中期以来絵画，図案，彫刻，漆工の4つの専攻が置かれました。その教育では写生や模写をはじめとする実技が大きな比重を占めましたが，歴史や理科といった教養を深める授業も重視されました。その教育の場で活躍したのが，肉筆による掛図や台紙貼された標本です。教養教育を支えた資料を初めてまとまった形で紹介します。
◉ギャラリートーク：10/8〔火〕12:15-12:45

谷口香嶠《兜沿革図（戦国時代及び兜形式）》（1910）

京都市立芸術大学 芸術資料館収蔵品活用展
still moving library（仮） 入場無料

会期 9/28〔土〕－11/3〔日・祝〕
会場 @KCUA

図書館というだけでなく（個人の）書庫・コレクションなども含む広義で捉えた「library」という言葉をキーワードとして，芸術大学での教育・研究資料，アーカイブなどの資源の「活用」方法，また「活用」の場とは何かを考えるプロジェクト。

教室のフィロソフィー Vol.12 桐月沙樹 個展 入場無料

会期 10/12〔土〕－10/27〔日〕
会場 ギャラリー崇仁

2019年度 芸術資料館収蔵品展 第5期
模写を読む－画家は何をうつしてきたのか 入場無料

会期 10/26〔土〕－12/1〔日〕
会場 京都市立芸術大学 芸術資料館陳列室

模写は古くから絵画の学習における一手段や，貴重で実見が難しい本物の代用品などの役割を担ってきました。近代以降はその目的・役割が変化し，それとともに様式も変遷しています。変わらないものの代表のように見える古画の模写ですが，実は極めて歴史的な産物なのです。
当館には，江戸時代から平成まで，数多くの模写が所蔵されています。これらを読み解くことで，人の手でうつし伝えられてゆくものの可視化を試みます。
◉ギャラリートーク：11/26〔火〕12:15-12:45

教室のフィロソフィー Vol.13 柞磨祥子 個展 入場無料

会期 11/2〔土〕－11/10〔日〕
会場 ギャラリー崇仁

京都市立芸術大学 美術学部 同窓会展
漆工（塗装）専攻の今熊野時代・沓掛時代を振り返る

会期 11/9〔土〕－11/24〔日〕 入場無料
会場 @KCUA

崇仁地域への移転を控えて，今熊野学舎・沓掛学舎時代の漆工（塗装）専攻の教育やその成果を漆工（塗装）卒業生・修了生から応募のあった当時の作品と京都市立芸術大学芸術資料館収蔵作品を中心に検証します。

岡本 秀「マンガ（仮）」 入場無料

会期 11/9〔土〕－11/24〔日〕
会場 @KCUA

日本絵画の技材をもちいた絵の展示です。おもに画中画や額縁といった，異なる次元を行き来するモチーフを扱い，再現と模倣と表現のあいだで，これから目指すことのできる新しい視覚表現の方向性について検討します。

教室のフィロソフィー Vol.14 森 夕香 個展 入場無料

会期 11/23〔土・祝〕－12/8〔日〕
会場 ギャラリー崇仁

第30回 留学生展

入場無料

会期 11/28〔木〕－12/8〔日〕
会場 @KCUA

世界各国からの本学留学生による展覧会。本学で学び，独自の作風を切り開く留学生たちの力作を展示します。

撮影：大島拓也

ジョーン・ジョナス個展

入場無料

会期 12/14〔土〕－2/2〔日〕
会場 @KCUA

パフォーマンスとニューメディアを融合させた新しい芸術表現の先駆者であり，50年にわたり現代美術の最先端を走り続ける美術家，ジョーン・ジョナス（第34回（2018）京都賞思想・芸術部門受賞者）の長年の業績を包括的に紹介します。

Portrait of Joan Jonas, New York, 2012. Photo by Brigitte Lacombe

京都市立芸術大学 2019年度作品展

入場無料

会期 2020/2/8〔土〕－2/11〔火・祝〕
会場 京都市立芸術大学，元崇仁小学校

本学学内をメイン会場に，美術学部1回生から美術研究科修士課程2回生までの全学生約700名の作品が一堂に会する大規模な展覧会。

撮影：上原 徹

演奏会

第9回関西の音楽大学オーケストラフェスティバル

料金 1,500円　定員 1,500名

日時 9/16〔月・祝〕15:00 開演
会場 京都コンサートホール 大ホール

京阪神8大学による合同オーケストラ演奏会。ロビーでは大学紹介ブースが並び，音楽大学の魅力を堪能できるフェスティバル。
指揮：秋山和慶
曲目：サン＝サーンス / 交響曲第3番ハ短調 op.78「オルガン付」ほか

ホワイエコンサート

入場無料　定員 100名

日時 11/16〔土〕17:10 開演予定
会場 京都国立近代美術館

京都国立近代美術館のホワイエ（ロビー）で開催。演奏者と観客の距離の近さが魅力。声楽専攻が，展覧会の内容にあった日本歌曲を披露する予定です。

文化会館コンサートⅠ 管・打楽専攻によるアンサンブル

入場無料　定員 400名

日時 11/20〔水〕19:00 開演予定
会場 京都市北文化会館

毎回一つの専攻がプロデュースする演奏会。今回は管・打楽専攻が気軽に楽しめるクラシック音楽をお届けします。

ウエスティ音暦2 弦楽専攻生によるアンサンブル

入場無料　定員 400名

日時 11/30〔土〕14:00 開演予定
会場 京都市西文化会館ウエスティ

地域の方をはじめとする市民の皆様に気軽に足を運んでいただけるコンサート。大人から子どもまで楽しめる親しみやすいプログラムをお届けします。

第162回 定期演奏会

料金 1,200円　定員 1,500名

日時 12/9〔月〕19:00 開演予定
会場 京都コンサートホール 大ホール

1953年に第1回が開催された伝統ある本学の定期演奏会。京都芸大の力を結集した演奏会は必聴！

撮影：上原 徹

クリスマスチャリティーコンサート

有料　定員 300名

日時 12/21〔土〕19:00 開演予定
会場 京都市立堀川音楽高等学校音楽ホール

クリスマスシーズンにお届けする京都新聞との共催によるチャリティーコンサート。

文化会館コンサートⅡ 作曲専攻による新作発表会

入場無料　定員 400名

日時 2020/2/5〔水〕18:00 開演予定
会場 京都市北文化会館

作曲専攻がプロデュースする演奏会。学生による作品を，実技専攻生が演奏する形の発表会。

第163回 定期演奏会 大学院オペラ

事前申込制

日時 2020/2/15〔土〕，16〔日〕各日 14:00 開演予定　入場無料
会場 京都市立芸術大学 講堂

大学院生による毎年好評のオペラ公演。本格的な舞台セットや衣裳，華やかな演出は一見の価値あり。事前申込制（多数の場合は抽選）。

撮影：上原 徹

公開講座

伝音セミナー（前期）第4回
昭和時代の"現代音楽"発掘

先着 50名　無料

日時 8/8〔木〕14:40-16:10 会場で当日14時から受付開始
会場 京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1
講師 田鍬智志（日本伝統音楽研究センター准教授）
竹内 直（芸術資源研究センター客員研究員）

伝音セミナー（前期）第5回
大衆演芸にみる芝居と流行り唄

先着 50名　無料

日時 9/5〔木〕14:40-16:10 会場で当日14時から受付開始
会場 京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1
講師 薗田 郁（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）

▲ 公開講座

語りの立体化そして復曲－狂言，能，題目立－（仮）

日時　11/16［土］12:30-16:00 予定　　無料

会場　京都市立芸術大学 講堂

司会・企画　藤田隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

源平盛衰記に描かれる「石橋山の合戦」をテーマにした，狂言，能，題目立の比較を行います。
演目：狂言《文蔵》（大蔵流），復曲能《眞田》（観世流），題目立《石橋山》

▲ その他のイベント ▲

▲ 美術学部オープンキャンパス

事前申込制　無料

日時　8/4［日］10:00-17:00 予定

会場　京都市立芸術大学

学部説明会，学科・専攻説明会，専攻見学，専攻別学生作品・研究内容の展示，各種ワークショップ，個別相談コーナーなど。［無料，事前申込制］
https://www.kcua.ac.jp/admission/art_open_campus/

撮影：上原 徹

▲ 音楽学部オープンスクール

事前申込制　無料

日時　10/6［日］10:00-17:00 予定

会場　京都市立芸術大学

専攻別ガイダンスでの教員・学生との懇談，各専攻のレッスンの見学，職員による個別相談コーナーなど。［無料，事前申込制］
＊詳細は本学 HP で8月中に公表予定

撮影：上原 徹

▲ 京都市立芸術大学祭

入場無料

日時　11/2［土］，3［日・祝］，4［月・振休］10:00-20:00 予定

会場　京都市立芸術大学ほか

作品展や学生コンサートのほか，生演奏をバックにした臨場感あふれるミュージカルステージや趣向を凝らした独創的な模擬店など，京都芸大ならではの芸大祭に是非お越しください。
今年のテーマは「出会い、民族、私。」です。様々な「民族」衣装，料理，音楽，言語の集結する場として芸大祭を作り上げ，来場者に非日常や異文化に触れる体験を楽しんでもらうとともに，芸大祭をきっかけに生まれる様々な「出会い」を通して，「私」＝学生自身が変化し成長する場にしたいという思いが込められています。

撮影：上原 徹

▲ THE GIFT BOX 2019
アーティストが提案する特別なギフト。

入場無料

日時　12/21［土］，22［日］11:00-18:00 予定

会場　京都府京都文化博物館　別館ホール（旧日本銀行京都支店）

会場となる京都文化博物館別館ホールを巨大なギフトボックスに見立てて開催されるアートマーケット。クリエイター自身がブースに立ち，制作した工芸品やアクセサリー，雑貨などの展示販売を行うほか，演奏家による無料のミニコンサートも随時開催。日常よりも少しだけ特別な“ギフト”を是非探しに来てください。

2020 年 2 月以降の主なイベント

■ 展覧会

会期	企画名	会場
2/15［土］－3/1［日］	横田学教授退任記念展	@KCUA
2/15［土］－3/1［日］	森山佐紀・山西杏奈「朝と夜，森にて」	@KCUA
3/7［土］－3/22［日］	浅野均教授，大野俊明特任教授，中ハシ克シゲ教授，三橋遼教授退任記念展（仮）	@KCUA

● 演奏会

開催日時（予定）	企画名	会場
3/21［土］時間未定	第49回卒業演奏会［入場無料］	京都府民ホール アルティ

▲ 公開講座

開催日時（予定）	企画名	会場
2/9［日］ 14時－16時30分予定	公開講座「常磐津家元所蔵浄瑠璃本による復元的上演とその課題」（仮）	京都市立芸術大学 新研究棟7階 合同研究室1

本学ウェブサイトでは，本学主催イベントの最新情報がご覧いただけます！
https://www.kcua.ac.jp/category/event/

会場案内　※各会場へは公共交通機関をご利用ください。

▲● **京都市立芸術大学**　京都市西京区大枝沓掛町 13-6
> 京阪京都交通バス「芸大前」より徒歩すぐ
◉ JR 京都駅前バス乗場 C2 より 2・14・28 系統乗車（約45分）
◉阪急桂駅東口より 1・2・13・14・25・28 系統乗車（約20分）
◉ JR 桂川駅または阪急洛西口駅より 11A 系統乗車（約15分）

■ **京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA**
● **京都市堀川音楽高等学校 音楽ホール**
京都市中京区押油小路町 238-1
> 地下鉄二条城前駅2番出口より徒歩約3分
> 市バスまたは京都バス「堀川御池」より徒歩すぐ

■ **ギャラリー崇仁**（元崇仁小学校内）　京都市下京区川端町 16
> JR 京都駅中央口より徒歩9分
> 地下鉄烏丸線京都駅ポルタA3出口より徒歩7分
> 京阪七条駅1番出口より徒歩6分

● **京都市北文化会館**
京都市北区小山北上総町 49-2（キタオオジタウン内）
> 地下鉄北大路駅1番出口より徒歩すぐ
> 市バス「北大路バスターミナル」より徒歩すぐ
> 京都バス「北大路駅前」より徒歩すぐ

● **京都コンサートホール**　京都市左京区下鴨半木町 1-26
> 地下鉄北山駅 1 番または 3 番出口より南へ徒歩約5分

● **京都国立近代美術館**　京都市左京区岡崎円勝寺町 26-1
> 市バス「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」
　または「岡崎公園 美術館・平安神宮前」より徒歩すぐ
> 地下鉄東山駅より徒歩約10分

● **京都市西文化会館 ウエスティ**　京都市西京区上桂森下町 31-1
> 阪急上桂駅から徒歩約15分
> 市バス 29・69 系統「西京区役所前」より徒歩約2分
　または 73 系統「平和台町」より徒歩約5分
> 京阪京都交通バス「千代原口」より徒歩約10分

● **京都府京都文化博物館 別館ホール**（旧日本銀行京都支店）
京都市中京区三条高倉
> 地下鉄烏丸御池駅5番出口より徒歩3分
> 阪急烏丸駅 16 番出口より徒歩7分
> 市バス「堺町御池」より徒歩2分

お知らせ

2019年度新任教員

谷内 春子 講師
（日本画専攻）

児玉 靖枝 特任教授
（油画専攻）

田中 栄子 准教授
（版画専攻）

若杉 聖子 講師
（陶磁器専攻）

上田 順平 特任講師
（陶磁器専攻）

中井 悠 講師
（音楽学専攻）

2019年度部局長体制

職名	氏名
美術学部長	中原 浩大
美術研究科長	栗本 夏樹
音楽学部長	砂原 悟
音楽研究科長	山田 陽一
日本伝統音楽研究センター所長	渡辺 信一郎
芸術資源研究センター所長	石原友明
学生部長・キャリアデザインセンター長	藤野 靖子
情報管理主事	阿部 裕之
附属図書館長・芸術資料館長	礪波 恵昭
事務局長	藤本 信和

移転整備プレ事業「教室のフィロソフィー」開催中

移転整備プレ事業
教室の
フィロソフィー

本学では，2023年度の京都駅東部へのキャンパス移転までの期間，移転予定地を中心に，移転の機運を高め，地域との交流を深めていくため，移転整備プレ事業を展開しています。

移転予定地にある元崇仁小学校の職員室をリノベーションした「ギャラリー崇仁」では，本学を卒業・修了した若手作家を紹介するプロジェクト「教室のフィロソフィー」として，これまでに10回を超える展覧会を開催しています。今後も様々な展覧会を予定しておりますので，お近くにお越しの際は，是非お立ち寄りください。

GALLERY
SUUJIN
ギャラリー崇仁 元崇仁小学校内
京都市下京区川端町16 京都駅より徒歩9分

今後の予定
Vol.11 福岡佑梨（修士課程 陶磁器修了）9月14日～9月29日
Vol.12 桐月沙樹（修士課程 版画修了）10月12日～10月27日
Vol.13 柞磨祥子（修士課程 漆工修了）11月2日～11月10日
Vol.14 森　夕香（修士課程 日本画修了）11月23日～12月8日

教室のフィロソフィーVol.9 夏池風冴 個展（4月28日–5月12日）撮影：上原 徹

教室のフィロソフィーVol.10 Will Hall 個展（6月1日–6月16日）撮影：上原 徹

ご寄付のお願い

ご支援いただき ありがとうございました。

2019年上半期中にご寄付をいただいた皆様の内，公表に同意いただいた方のお名前を掲載させていただきます。（敬称略・五十音順）

未来の芸術家支援 のれん百人衆

株式会社大垣書店
株式会社聖護院八ツ橋本店
株式会社西利
畑 正高
株式会社ハトヤ観光
株式会社マルヤス建物
村山造酢株式会社
鷲田 清一

京芸友の会

ローム株式会社

皆様から頂戴いたしました寄付金につきましては，学生の教育環境の充実のため大切に活用させていただいております。支援事例や実績につきましては，本学ウェブサイト［京都芸大へのご支援のお願い］をご覧ください。 **https://www.kcua.ac.jp/contribution/**

皆様からのご支援をお願いします。

京都芸大の寄付メニュー

未来の芸術家支援 のれん百人衆

目的：教育研究等の充実
募集対象：主に地元の老舗企業等
受入単位：1口30万円×5年※
主な使途：機材や楽器の購入，演奏会の支援など
※1口あたりの金額・年数についてはご相談ください。

京芸友の会

目的：学生活動や教育研究等の充実
募集対象：個人・法人（団体）
受入単位：1口2千円
主な使途：学生及び卒業生等の芸術活動支援，学生活動の支援など
特典：本学主催の定期演奏会へのご招待※
※5口（1万円）以上の寄付者に限る

京都市立芸術大学 広報誌「京芸通信」Vol. 024　2019年7月発行　〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6　TEL ⇨ 075-334-2200（代表）FAX ⇨ 075-332-0709（代表）URL⇨https://www.kcua.ac.jp/　Facebook⇨https://www.facebook.com/kcua.ac.jp　Twitter⇨https://twitter.com/kyoto_geidai